

西伊豆健育会病院

薬剤科 薬剤助手 波出石 佐矢加

- 功 績** 薬剤助手として薬剤師が十分に機能を発揮できるようサポートし、薬剤師1人体制という危機を乗り越える原動力となった功績
- 推 薦 者** 山本 洋光
- 推 薦 理 由** 薬剤助手の波出石は、助手として知識と技術を研磨しながら、何度となく訪れた薬剤師1人体制の危機を脱するサポートをしてきました。また目の前の患者さんのために自身が育った地元・地域のために看護師となって貢献したいとの夢を持ちそれを実践した彼女を、他の職員の模範といたく、波出石佐矢加を理事長賞に推薦いたします。

内 容

薬剤助手の波出石は経理担当として4年間勤務し、出産を機に病院を離れました。出産して1ヶ月後、薬剤科長より、「薬剤師が骨折して緊急事態なので手伝って欲しい。」と連絡があり、再入職してから今年で13年になります。

再入職当初、薬剤助手としての仕事を引き受けたものの、薬の知識も無く、子育てとの両立ができるのか不安な毎日でした。しかし、保育室を利用できるお陰で仕事に集中でき、薬剤科長、他部署のスタッフの協力のもと順調に仕事を覚えることができました。

当院は薬剤師が常時2人体制とはならず、薬剤科長がほぼすべての薬剤師業務を行います。今年度も3月に薬剤師が退職したため、4月から9月の半年間を2人で乗り切りました。

今では助手としてやるべきこと、また役割もはっきりと自覚できるようになり、薬剤助手としての仕事にやりがいを感じ、責任感と使命感を持って仕事に臨んでいます。

また以前より、波出石は患者さんのために懸命に職務を全うする医師、看護師と間近で接し、自分も直接患者さんのために役に立つ仕事をしたいと思うようになりました。目の前で、子育てをしながらも、生き活きと仕事をする看護師達の姿を見て、その気持ちが日に日に大きくなりました。

今回、波出石は上司、同僚、そして家族に相談し、「看護師」になろうと決めました。自分の娘の年齢と変わらない人達と、一緒に勉強していくことを躊躇しない訳ではありませんでしたが、自分の夢を叶えるために一歩を踏み出すことを決意しました。先日看護学校の試験合格を知らせに来てくれた際、「患者さんのために、そして私を成長させてくれた皆に恩返しをするために、必ず看護師となって西伊豆健育会病院に戻って来ます。」と約束してくれました。